

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

熊谷スポーツ文化公園ラグビーの聖地化プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

埼玉県

3 地域再生計画の区域

埼玉県の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

熊谷市を中心とする埼玉県北部地域はラグビーが盛んであり、全国高等学校ラグビーフットボール大会優勝経験のある県立熊谷工業高校など全国トップクラスの高等学校のほか、大学、社会人など様々なラグビーチームを擁している。

こうしたスポーツに関する地域特性を生かしたまちづくりを進めるため、県は熊谷市と連携してラグビーワールドカップ2019の大会誘致に取り組み、熊谷スポーツ文化公園ラグビー場が会場として選定された。

熊谷スポーツ文化公園は、全国高等学校ラグビーフットボール大会、全国大学ラグビーフットボール選手権大会、ジャパンラグビートップリーグのパナソニックワイルドナイツの試合が行われるなど、全国規模の大会が多数開催されるわが国を代表するラグビー場となっている。

また、平成26年3月には7人制ラグビーのナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設に認定され、ラグビーワールドカップ2019に向けラグビーを核としたまちづくりの機運が高まっている。

4-2 地域の課題

ラグビーワールドカップ2019の会場の一つである熊谷スポーツ文化公園ラグビー場は、「西の花園 東の熊谷」と並び称されるものの、東大阪市の花園ラグビー場と比較すると全国的な認知度が十分高いとはいえない。

また、平成31年9月に開催されるラグビーワールドカップ2019には国内外から多くの観戦者が熊谷スポーツ文化公園に来場すると見込まれるが、厳しい残暑が予想される中で来訪者が快適に観戦を楽しめる環境を整えると

とともに、広く国内外にラグビーのまち熊谷を認知してもらう必要がある。

4-3 目標

ラグビーワールドカップ2019を契機に、熊谷スポーツ文化公園ラグビー場を「西の花園 東の熊谷」の呼称にふさわしいグレードの高いラグビー場にレベルアップするため、迫りに満ちた国際試合を体感できる大型映像装置を整備する。

また、厳しい残暑の時期に国内外から訪れる多くの観戦客が快適に過ごせるよう、公園入口からラグビー場への動線に樹高10mのケヤキを植えた並木道を整備し、緑の木かげを創出する。

これらの環境整備によりラグビーワールドカップ2019開催時のにぎわいを最大限に高めるとともに、試合開催時以外も緑豊かな公園で誰もが快適な時間を楽しめるようにし、大型映像装置によるパブリックビューイングの実施など様々なイベント等を開催することで、公園を訪れる人の流れを拡大する。

また、「ラグビーによるまちづくり」を進めている地元熊谷市と連携して、スポーツツーリズムの推進、国際試合やジャパンラグビートップリーグの更なる誘致を進めることにより、「ラグビーの聖地」としての熊谷スポーツ文化公園ラグビー場のブランドイメージを高め、選手や観戦客などの交流人口の増大と地域経済の活性化に結びつける。

【数値目標】

事業	熊谷スポーツ文化公園 ラグビーの聖地化プロ ジェクト	年月
KPI	熊谷スポーツ文化公園 有料施設※利用人数	
申請時	98.6万人	H29.3
初年度	100.0万人	H31.3
2年目	101.0万人	H32.3
3年目	102.0万人	H33.3

※ ラグビー場、陸上競技場、屋内運動施設、体育館、
ソフトボール場、グランドゴルフ場

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

ラグビーワールドカップ2019の開催に合わせ、熊谷スポーツ文化公園の改修を行い、ラグビーの聖地にふさわしい環境を整えるとともに、国内外からの来訪者の受け入れ態勢を整える。

ラグビーワールドカップ2019において、これらの環境を最大限活用するほか、大会後においても国際試合を誘致し、日本代表選手等の強化施設としても利用するなど継続的な集客や活用をすることで、将来世代のレガシーとして継承できるようにする。

また、ラグビー場への観客動線には緑豊かな高木（ケヤキ）の並木道を整備し、大会のムードを盛り上げるバナーを掲出できる照明を設置することで、ラグビー観戦者以外の来訪者も楽しめる空間を創り、にぎわいを創出することで公園の来訪者増加を図る。

○熊谷スポーツ文化公園ラグビー場の改修

- ・新メインスタンド及びサイドスタンドの整備
- ・既存スタンドの改修
- ・競技用照明の整備
- ・大型映像装置の整備

○熊谷スポーツ文化公園おもてなし向上の取組

- ・ケヤキ並木の整備
- ・小森のオアシス整備
- ・バナー対応型照明灯の整備

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）【A2007】

(1) 事業名：熊谷スポーツ文化公園ラグビーの聖地化プロジェクト

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

ラグビーワールドカップ2019を契機に、熊谷スポーツ文化公園ラグ

ビー場を「西の花園 東の熊谷」の呼称にふさわしいグレードの高いラグビー場にレベルアップするため、迫りに満ちた国際試合を体感できる大型映像装置を整備する。

また、厳しい残暑の時期に国内外から訪れる多くの観戦客が快適に過ごせるよう、公園入口からラグビー場への動線に樹高10mのケヤキを植えた並木道を整備し、緑の木かげを創出する。

これらの環境整備によりラグビーワールドカップ2019開催時のにぎわいを最大限に高めるとともに、試合開催時以外も緑豊かな公園で誰もが快適な時間を楽しめるようにし、大型映像装置によるパブリックビューイングの実施など様々なイベント等を開催することで、公園を訪れる人の流れを拡大する。

また、「ラグビーによるまちづくり」を進めている地元熊谷市と連携して、スポーツツーリズムの推進、国際試合やジャパンラグビートップリーグの更なる誘致を進めることにより、「ラグビーの聖地」としての熊谷スポーツ文化公園ラグビー場のブランドイメージを高め、選手や観戦客などの交流人口の増大と地域経済の活性化に結びつける。

(事業の内容)

・熊谷スポーツ文化公園ラグビー場大型映像装置設置事業

熊谷スポーツ文化公園ラグビー場でワールドカップなど一流の国際試合も開催できるよう約60㎡の大型映像装置を設置し、試合観戦環境の一層の向上を図る。これらの事業により、熊谷のラグビーの聖地としてのブランド力を高め、国内外からの交流人口を拡大する。

・熊谷スポーツ文化公園バナー対応型照明灯設置事業

ラグビー場に向かう主要動線に樹高約10mのケヤキを約60本植栽し並木道を整備することで、緑の木かげを創出する（並木道整備については独自取組で実施）。また、ケヤキ並木整備に合わせ、バナー対応型照明灯を約35基設置し、国内外からの来訪者が快適に過ごせる環境を整備する。

→各年度の事業の内容

熊谷スポーツ文化公園ラグビー場大型映像装置設置事業

初年度) 熊谷スポーツ文化公園ラグビー場に設置する大型映像装置の設計を行い、製作・設置する。

熊谷スポーツ文化公園バナー対応型照明灯設置事業

初年度) 熊谷スポーツ文化公園に設置するバナー対応型照明灯の設計を行い、工事を実施する。

(4) 地方版総合戦略における位置付け

埼玉県地方版総合戦略である「埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、ラグビーワールドカップ2019の開催を埼玉の魅力を発信する絶好のチャンスととらえ、国内外の観光客などの交流人口の増加を図るとともに地域の活性化の起爆剤にするとしている。また、総合戦略のKPIとして「ラグビーワールドカップと東京オリンピック・パラリンピック前年に開催されるテストイベントの観客数23万人」を定めており、本事業は総合戦略に掲げている目標のこの部分に位置付けられ、地域の活性化につながるものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標

【数値目標】

事業	熊谷スポーツ文化公園 ラグビーの聖地化プロジェクト	年月
KPI	熊谷スポーツ文化公園 有料施設※利用人数	
申請時	98.6万人	H29.3
初年度	100.0万人	H31.3

※ ラグビー場、陸上競技場、屋内運動施設、体育館、ソフトボール場、グランドゴルフ場

(6) 事業費

(単位：千円)

熊谷スポーツ文化公園ラグビー場大型映像装置設置事業	年度	平成30年度	計
	事業費計	459,928	459,928
区分	工事請負費	449,928	449,928
	委託費	10,000	10,000

熊谷スポーツ文化公園バナ ー対応型照明灯設置事業	年度	平成30年度	計
	事業費計	64,000	64,000
区分	工事請負費	62,000	62,000
	委託費	2,000	2,000

(7) 申請時点での寄附の見込み (単位：千円)

	H30	計
保険業	100	100
計	100	100

(8) 事業の評価の手法 (PDCAサイクル)

(評価手法)

毎年度、各年度の目標及び KPI の達成状況を企画財政部計画調整課が取りまとめて、埼玉県まち・ひと・しごと創生有識者会議により検証結果報告をまとめる。

(評価の時期・内容)

事業年度の翌年度に、埼玉県まち・ひと・しごと創生有識者会議により事業の効果検証を行う。

(公表の方法)

埼玉県まち・ひと・しごと創生有識者会議の会議資料及び検証結果の概要を埼玉県ホームページにおいて公表する。

(9) 事業期間

平成30年4月～平成31年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 熊谷ラグビー場改修事業

事業概要：ラグビーワールドカップ2019大会の開催に向けたメインスタンド及びサイドスタンドの新設及び老朽化した旧メインスタンド(改修後はバックスタンド)の修繕を実施する。

事業主体：埼玉県

事業期間：平成26年度～平成30年度

(2) 熊谷スポーツ文化公園木かげ創出事業

事業概要：ケヤキを植栽し並木道を整備することにより、緑の木かげを創出する。

事業主体：埼玉県

事業期間：平成29年度～平成30年度

(3) 公園等建設事業

事業概要：熊谷スポーツ文化公園など県営公園のトイレ洋式化改修を実施し、誰もが安全で快適に利用できる公園施設の充実に図る。

事業主体：埼玉県

事業期間：平成30年度～平成32年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

毎年度、各年度の目標及びKPIの達成状況を企画財政部計画調整課が取りまとめて、埼玉県まち・ひと・しごと創生有識者会議により検証結果報告をまとめる。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

事業年度の翌年度に、埼玉県まち・ひと・しごと創生有識者会議により事業の効果検証を行う。

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

埼玉県まち・ひと・しごと創生有識者会議の会議資料及び検証結果の概要

を埼玉県ホームページにおいて公表する。